

令和5年度 第1回 横浜市地域包括支援センター運営協議会 議事要旨	
日 時	令和5年6月15日（木曜日） 15:05～16:00
場 所	横浜市役所 18階みなと123会議室
出 席 者	山崎委員（会長）、加賀谷委員、小林（裕）委員、白藤委員、高崎委員、柳田委員、谷村委員、中村委員、石内委員、小倉委員、黒川委員、佐藤委員、肥後委員、堀元委員 計14名
欠 席 者	岩嶋委員、小田委員、山根委員、小林（久）委員、杉浦委員、若栗委員 計6名
開 催 形 態	公開（傍聴者2名・報道関係者0名）
議 題	1 議題 （1）令和5年度 第1回市レベル地域ケア会議
議 事	<p>1 議題</p> <p>（1）令和5年度 第1回市レベル地域ケア会議について （事務局）「資料1 令和5年度第1回市レベル地域ケア会議」項目1及び項目2を説明。 （山崎会長）この項目について、質問はあるか。 （質問なし）</p> <p>（事務局）「資料1 令和5年度第1回市レベル地域ケア会議」項目3及び項目4を説明。 （事務局）これまでの検討議論（検討テーマ：多様な主体による高齢者の生活支援～居場所～）をまとめるにあたり、第9期計画における施策に反映すべき視点について、議論をお願いしたい。</p> <p>（山崎会長）高齢者に、より効果的に情報が伝わる視点があるかについてはどうか。</p> <p>（柳田委員）居場所について、地域ケアプラザや町内会等で居場所づくりがあるが、参加する方が同じ。1人で家で過ごしているような方などを、どのように居場所につなげるかが、以前からの課題と感じている。新型コロナウイルス</p>

感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に移行し、活動が以前のように戻ってきているが、参加者の顔ぶれは同じである。そこからグループ化されるが、そうすると新しい人が入りづらく、新しい参加者の開拓が課題と感じている。

(中村委員) 情報を必要な人にどう届けるかが大切な課題と感じる。ウェブサイトへの掲載やポスターの掲示も、高齢者が見るかなどの課題もあり、もっと別の方法を検討する必要がある。地域包括支援センターやケアマネジャーなどに(高齢者等が)相談に来た時に、単純にデイサービスの情報提供をするだけでなく、近くにこういった居場所がある等の情報を家族や本人に提供する機会はかなりあるはず。また、インフォーマルサービスや居場所につなげ、専門機関への情報提供についても課題があると感じている。情報を届ける人の意識や認識についても課題があると思っている。

(佐藤委員) 広報について、努力をしているが、うまく伝わっていないと感じている。1人暮らしの方に個別に訪問し説明することも効果的だが、実際に効果がある手法は、友達から伝えてもらうことが一番と思う。

(白藤委員) ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビは、地域での取組が一元化されているが、情報発信後のつなげ方について、担い手と利用者の性別が気になる。イメージだが、担い手は女性が多く、男性の孤独、男性の社会参加は様々な調査でも課題となっている。地域ケアプラザ等に来ていない方について、どう情報を届けていくかが重要と考える。また、来ていない方のニーズの把握もどうすれば良いか、課題がある。

(山崎会長) フレイル等の視点も含め、御意見を伺いたいがどうか。

(黒川委員) 民生委員は、普段1人で訪問をしているが、訪問した際には、市役所や区役所の情報を選定して提供している。もっと身近な町内会や地域ケアプラザ等の情報も流した方がいかもしれない。ある地域では、手間はかかるが、一人暮らしの方のために資料を作って、地域ケアプラザや町内会のイベントを知らせている民生委員もいる。コロナ禍でも結構イベントは開催している

ので、民生委員として町内会や地域ケアプラザと連携し合うことが大切と考える。

(中村委員) 移動支援と居場所を一体的に考えることは良いと思うが、一方で取り組みやすさの視点では、あえて移動を入れないという考え方もある。いきいきサロンを例に考えると、月1回でも良い、補助もなくとも良い、送迎なしでも良い、など全てをそれまで良いとされてきたことの逆にすることで、取り組みやすさが生まれ、全国で普及した。自分達が取り組みやすく、気軽に行ける場所づくりも必要という考え方もあると思う。また、様々な地域の活動について、どこに行けば、そういった活動があるか等の質問をされることもある。本日、ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビを初めて知り、こういったことの周知が必要と感じた。安心できる活動や居場所に行きつくための環境整備が必要である。

(高崎委員) 山が多い地形に地域ケアプラザがあり、移動支援もないため、行きたくてもいけないという声がある。周辺のマンションでは、サロンや囲碁、コーラスなどが行われており、そのマンションの住民にとっては移動しないで活動できる場所等があるが、地域ケアプラザのイベントには行くことができないので、やはり移動支援は必要と考える。

(小林委員) 今後の認知症世帯の増加について、老々介護も大変だが、介護している側の息抜きとしての居場所も必要と思う。情報発信は、女性の発言力が高く、男性はあまり発言されないケースが多いという印象があるが、男性も昔の仕事の話等を振ると、饒舌に話し始めるケースもある。女性と一緒にだと男性が発言しない場合もあるので、男性だけの集まりの場があっても良いと感じた。

(石内委員) 民生委員の方や居場所への参加者などは、女性が多く、地域のヨコのネットワークも強いと感じている。男性は、現役時代もヨコのつながりは少なく、今後、男性と女性でアプローチの方法を変える必要があると感じている。

(肥後委員) 夫婦で参加している人は男性も積極的だが、男性は1人暮らしになるとひきこもりがちになりやすくなる傾向も強いと思うのでどのようにフォローしていくと良いか。

(中村委員) 男性は、妻からの声かけによる参加が一番多い。ところで、プロボノの参加も男性の参加率が高いと思うが、いかがか。

(山崎会長) プロボノ参加者についてはどうか。

(事務局) 男性の方が多い。

(中村委員) 男性は、おしゃべりは苦手な人が多いが、技術的な部分(運転や修理や書類作成)は得意である。プロボノは良い例だと思う。男性と女性では参加しやすい活動にちがいはあると思う。先に男性が亡くなった場合など、男性が得意としている部分を行ってほしいと思う女性は多いと思うので修理ボランティア等も男性が参加しやすい活動としてありかと思う。

(佐藤委員) 既存の居場所を移転するにあたり、一番活躍したのは男性達で水漏れの修理等を行ってくれた。カラオケの施設も検討しているが、防音対応等もできる方もいる。居場所への参加者にはカラオケ好きな方が多く、その人たちのためになんとかしようという好循環に入るケースもある。活動の場所については、高齢者が立ち上げ、運営していくこともあるが、地域の若い方々の理解や参画が必要と感じている。今後、多世代で地域を作っていくといけなと感じる。若い世代の方への巻き込み方も重要と考える。

(堀元委員) 診療所の例として、訪問診療を広報しているが、伝わっていないことが多い。地域ケアプラザも情報をどう伝えるかを頑張っているが、元気なときから、困ったときにはどこに連絡すれば良いかを、頭に入れてもらうことも必要と感じている。

(谷村委員) 男性も活動に入るきっかけがあれば、入ると思う。興味があることが提示されれば活動の場に出てくると思う。例えば、城や武士、歴史等は好

	<p>きな人が多く、コミュニケーションがとれるもので同好会等がたくさん出来れば、参加したいと感じる人は多いと思う。きっかけ作りが重要と考える。</p> <p>(事務局) 男性の参加率については、課題として考えているところもあり、別途研究している先生とも相談し、分析していきたいと感じている。</p>
資 料	<p>資料1 令和5年度第1回市レベル地域ケア会議</p> <p>資料2 令和4年度 地域ケア会議実施結果報告</p>
特 記 事 項	なし